

学校だより 芝っ子

令和5年11月27日
松本市立芝沢小学校



なかよし旬間

11月13日から24日まで、学校はなかよし旬間でした。期間中は、姉妹学級でさつまいも交流（ふかし芋などの会食とレクレーション）をしたり、『ふわふわの木』（学年ごと、友だちのよいところや、友だちにしてもらってうれしかったことなど、一人ひとり花びらの形のカードに記して貼る）を作ったりしました。

また、校長講話では、絵本『となりのたぬき』（せな けいこ/作）のお話を読み聞かせ、子どもたちに、主人公のうさぎの心情に寄り添わせ、相手への自分の気持ちの変化やよりよい関わり方を考えさせました。

…たぬきのことが大嫌いだったうさぎは、お月様に「一カ月たぬきに親切にしてやれば、自分がたぬきをこらしめてあげよう。」と言われ、一カ月の我慢と思い、たぬきにとっても親切にしてあげます。すると、次第にたぬきは、うさぎのことをいいやつだと思うようになり、うさぎにいじわるをせず、優しくしてくれるようになります。そうして、うさぎは、お月様にお願ひに行きます。（こらしめるのを）「やめてくださーい。」っと…。

校長は、「さて、この後、うさぎとたぬきは怎么样了でしょうか。」と子どもたちに投げかけました。



- ・うさぎとたぬきは、けんかをしていたのに、うさぎがたぬきの部屋をきれいにしてくれて、たぬきはうれしそうだった。（1年生）
- ・うさぎとたぬきは、はじめ仲が悪かったけど、うさぎが優しくしたからたぬきも優しくした。わたしも好きじゃない友だちに、うさぎさんみたいに遊んだり仲よくしたりしてみたい。（1年生）
- ・たぬきとうさぎが「やさしいんだな」と言って心をひらいていった時、ぼくは、うさぎが「なんてことを言ってしまったんだ」と言っていたところが感動しました。（2年生）
- ・いいことをするといいことがもどってきて、いい気持ちになっていいな、と思いました。（2年生）
- ・うさぎがたぬきに優しくしていたから、たぬきも優しくなったのだと思います。お母さんが、「人に親切にしていると、人からも返ってくるよ。」とわたしに教えてくれたのも同じことかなと思いました。（3年生）
- ・お月様が二人が仲よくなるようにやってくれたんだなと思いました。この後、うさぎが月を止めて仲よくなったと思います。理由は、もう友だちになったから傷つけたりしたくないからです。二人とも仲よくなれているといいなと思いました。（3年生）
- ・けんかばかりしている人でも優しくすれば、優しさがかえってくるんだなと思いました。（4年生）
- ・自分の行動がどうかを考えました。そうしたら、案外自分もできそうじゃん！と思いました。いろいろな人と遊んだりして関係を近づけようと思います。（4年生）
- ・考え方を変えれば人柄も変わるんだと思いました。親切にすることで変わるんだとびっくりしました。（5年生）
- ・どんどんやさしくしていくごとにお互いの気持ちがわかり合えたと思いました。（5年生）
- ・うさぎの優しさが、本物の優しさに変わっていったのがいいと思いました。うさぎとたぬきははずっと本物の友情で仲よくできたらしいなと思いました。（5年生）
- ・人に優しくしたり、親切にしたりすると、相手の良い所や自分がまだ知らなかったことが知れるんだなと思いました。（6年生）
- ・親切にしていくうちに、相手への気持ちが高まって、心が変わっていく、相手に認められると感じた。（6年生）
- ・人それぞれに好き嫌いがあって、うさぎとたぬきはどちらも嫌い同士だったけど、お互いの良い所を見つけると、お互い気持ちよく生活できる、学校生活のヒントもあったな、と思いました。なかよし旬間の「ふわふわの木」も、友だちの良い所を探すというのがテーマなので、それぞれ仲よくなり、楽しく学校で過ごしたいです。（6年生）

子どもたちの感想を見ますと、“うさぎ＝自分”でその気持ちを想像し思考している1年生から、学年が上がるにつれて“うさぎ⇒自分”とうさぎの行為を通して自身のことをふり返り、人との関わり方について思考している様子がわかります。それぞれに『なかよし』について、考え、行動し、意識を高めることができた旬間になりました。

